

第116回東北地方交通審議会
船員部会議事要録

平成30年 6月22日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会 第116回船員部会

日 時 平成30年6月22日（金） 13：30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員：高橋（真）部会長、増田部会長代理（欠席）、

佐々木委員（欠席）、森委員

労働者委員：熊谷委員、高橋（雅）委員、津田委員

使用者委員：齋藤委員、白幡委員（欠席）、平岡委員

運輸局：畠山海事振興部長（欠席）、丹藤海事振興部次長

佐藤船員労働環境・海技資格課長（欠席）

柳田船員労政課長、村林労政課専門官

大友労政係長

議 題

（1）管内の雇用等の状況について

（2）その他

（資料）

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（4月分）

資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）

資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）

資料4 新規求人・求職数（全国）

資料5 有効求人・求職数（全国）

資料6 有効求人倍率（東北管内）

資料7 有効求人倍率（全国）

資料8 「めざせ！海技者セミナーin仙台」開催プレスリリース

資料9 新聞情報

（参考資料） 東北運輸局 交通・観光主要施策2018

（参考資料） 平成30年版交通政策白書について

（参考資料） 中央船員部会資料 船員教育機関卒業生の求人・就職状況等
について

（参考資料） 女性船員の活躍促進に向けた女性の視点による提案

（参考資料） 海事産業における女性活躍推進の取組事例集

◎開 会

【丹藤海事振興部次長】

〔第116回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料の確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

〔柳田船員労政課長から資料1から資料7に基づき説明〕

【高橋（真） 部会長】

ただいまの報告について何かご意見、ご質問はありますでしょうか。

【高橋（雅） 労働者委員】

資料1の3ページ目の東北管内の取扱件数の中で、漁船のその他、先月9件、今月19件とありますが、これはどのような内容でしょうか。

【柳田船員労政課長】

漁業取締船とイカ釣り船、刺網船でした。職種では、主に甲板部が多かったと思います。

【高橋（雅） 労働者委員】

それは職員ですか。

【柳田船員労政課長】

部員が多かったです。

【高橋（真） 部会長】

ほかにありますか。

【津田労働者委員】

今の3ページの求職で、漁船の底びき網が先月同様、有効数が19ですが、地区の偏りはあるのでしょうか。

【柳田船員労政課長】

これは確か、昨年度末に八戸地区でやめた船がございまして、そのときに数字が伸びたもので、それが少し残っていたのかと。

【高橋（真） 部会長】

そのほかありますか。

ないようですので、続きまして、議題（2）その他に移ります。

最初に、資料8について事務局から報告をお願いします。

〔柳田船員労政課長から資料8に基づき説明〕

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。

ただいまの説明について、何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

【熊谷労働者委員】

（「めざせ！海技者セミナー in 仙台」は）毎年行っているということですが、
れども、今年で何回目ですか。

【柳田船員労政課長】

回数はカウントしていませんでした。

【熊谷労働者委員】

あともう一点、今年は21社ですが、船社は毎年増えているのですか。

【柳田船員労政課長】

昨年よりは会社の数としては減っております。会場の都合上、若干ブースの数は減らしております。

ただ、これは東北だけではなくて全国規模で行っているものなので、ここで説明会に参加できなかつたら関東や隣の局のセミナーに参加される企業もたくさんあるという状況です。

なるべく東北管内の事業者にもたくさん出てほしいというのもございますけれども、取捨選択をこちらでするのではなくて、募集をかけて、先着順で行っております。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。そのほかございますか。

ないようですので、それでは情報提供に移りたいと思います。

それでは、労働者委員からございますか。

【高橋（雅）労働者委員】

18日に3回目となります「東北地区船員教育機関、海運・水産会社等関係者との懇談会」を開催しまして、教育機関は8校から9名の先生方に出席していただき、業界団体の関係者等は44名、あと東北運輸局から柳田船員労政課長に出席していただきました。

懇談会の中では、特に生徒の意識調査ということで、1校ですが調査してきたということで、大体70%の生徒が船員職業に関心を抱いているということでした。その中で船員職業を選択しない理由として、「長期乗船」、「インターネット環境の不備」ということが主でした。

あともう一点が、各校、無料紹介所の認可を受けているのですが、卒業した生徒が離職して学校に相談に来たとき、情報として何もないので、できれば運輸局の情報を少し開示していただければということでした。インターネットで求人情報を見ると、トン数と船と求人している職業、職種、それしかわからないですよ。あと年齢と手取り額もわかりますが。それをもとにして、卒業生に教えたいのしょうけれども、それを問い合わせするには、運輸局にじかに問い合わせとか、求人票も出さないと具体的な中身というのは教えていただけない。せっかく学校でも無料紹介所をしているので、もし学校からそういう問い合わせがあったときは、それなりの部分を開示できればという要望がありました。

【高橋（真）部会長】

ありがとうございました。その点はどうですか。

【柳田船員労政課長】

取り扱いの範囲が学校それぞれで違っている部分があり、卒業生も含めて取り扱うとして届出している学校もあれば、卒業生も含んでいるが卒業して1年限定という学校もあるみたいです。それぞれで事情は違うのだろうという感じはあります。

ただ、学校に問い合わせが卒業生からあったとして、どうしても学校で全部やるとなると、運輸局の求人情報をその都度全部持っていかないと選べないとか、そういうふうな事情も出てくると思います。そうなると、運輸局の窓口で受け付けた求人票をそのまま出していいのかというのは、ちょっと整理していかないといけない。

【高橋（雅）労働者委員】

無料紹介所ではインターネットの求人情報を見て、その概要は出せると思いますが、詳細はよく分からない。卒業生は、学校に行けばある程度のことはわかるだろうということで行って、インターネットでの求人情報の概要を見て、その詳細をもう少し知りたいというところですので、全部ではなくて、この一部の部分だけでも開示するというのは難しいものですか。

【柳田船員労政課長】

整理できれば可能だと思いますが、その無料紹介所の届け出をしているという経緯が、そもそも、新規学卒者の求人をダイレクトで受けられるようにするための届け出というスタンスが非常に大きいです。

【高橋（真）部会長】

在校生については紹介できますよね。今のケースは、卒業して、1年後なり2年後に離職して学校に来た人たちに職業紹介ができるかどうかという話ですよ。

【柳田船員労政課長】

そうですね。そこはその取り扱い範囲にはまっていればできます。

【高橋（真）部会長】

はまっている、はまっていないは学校が判断するのですか。

【柳田船員労政課長】

学校がどういう範囲で届け出をしているかという形になります。

【高橋（雅）労働者委員】

その申請だけで大丈夫なのですか。

【柳田船員労政課長】

大丈夫だと思います。ただ、大もとの届け出のきっかけが、新規学卒者の求人を運輸局を通さなくても受理できるようにするために届け出をしているという感じがあります。

【高橋（真）部会長】

その届け出は、在学生に対する届け出と、卒業生に対する届け出と別にあるということですか。

【柳田船員労政課長】

いえ、別ではないですが、学校でどこまでの紹介事業をしようと考えているか

ということだと思います。

【高橋（真） 部会長】

今聞きたいのは、学校がどこまでしようと思っているかというそういう話ではなくて、手続上の違いが存在しているのかどうかということです。つまり、学校は来年3月に卒業する人たちにしか職業紹介ができないのか、あるいは卒業したけれども1年後2年後に離職した人が学校に来たときに、紹介できるのか。

【柳田船員労政課長】

そこまでできるようにはなっていると思います。

【森公益委員】

海技教育機構も無料職業紹介所になっていますが、海技教育機構の場合は、機構に直接求人が来ます。それは全部、既卒の人も新卒の人も一回に来ますので、卒業後に離職した人も各校に行けば紹介できるようになっています。ただ、それは運輸局に登録している求人を渡すのではなくて、海技教育機構に来た求人票を渡します。これでもし無かったら、運輸局に行ってみてはと言うわけです。

海技教育機構に来た求人票を開示するということはできますが、私どもが運輸局に、もっと知りたいので運輸局の求人票をほしいと言うのはできないですよ。我々もしないし。

【高橋（真） 部会長】

今の話からいうと、運輸局が提供してくれればオーケーということですか。そこがなにかはっきりしない気がします。

【森公益委員】

個人情報ですからね。

【高橋（真） 部会長】

働きたいという人たちがいるにもかかわらず、その紹介システムがうまく機能していないという気はします。話を聞いていると。

【高橋（雅） 労働者委員】

会社がもし学校に卒業生を対象とした求人票を出してくれと言ったら、そこは開示できるわけですよ。これを開示しても良いと、運輸局で求人票を受け付けますよね。運輸局の中で東北に出すとか関東周辺だけとか、そういうふうな縛りがありますよね。

【柳田船員労政課長】

そういうのは今の取り扱いの中にはないものですから、できるかと言われれば……

【高橋（真） 部会長】

話を聞いていると、情報を運輸局が持っているのに出さないという。出せるか出せないかは別にして、問い合わせがないので見せませんというような、そんな雰囲気聞こえるのですけれども。

【柳田船員労政課長】

いえ、逆にいえば、卒業生だからって行って学校に聞きに行かなくてはならないというわけではないので。

【高橋（真） 部会長】

例えば大学もそうですけれども、陸上のほうはほとんどですが、大学の場合は、卒業して、大体、6月ぐらいまでで3割辞めます。早目に内定をもらうのはいいのだけれども、勤めてから1カ月、2カ月でやめるのが多くて、今全国で大体2割から3割が5月ぐらいまでで辞めています。

ほかの大学もそうだと思います。卒業した学生が半年とか3カ月ぐらいで退職したという事実が確認できれば、学校に来てそこで職業紹介できます。ここ何年前からオーケーになっていて、学校に来れば職業紹介できるっていうシステムは、在校生だけじゃなくて卒業生にも紹介できるようになっています。

【柳田船員労政課長】

その求人情報というのは、年中学校にあるのでしょうか。

【高橋（真） 部会長】

要は、ハローワークに行くのと同時に、大学で紹介できるのであればということと来るわけです。せっかく持っているのであれば、今先生がおっしゃったように、海技教育機構に入っている分は紹介できるけれども、それ以外は紹介できないから運輸局へ行っておいでという話になってくると、せっかく、船員不足と言われて中、なりたいたいという人がいるにもかかわらず、学校に来た人に職業紹介ができない仕組みになっているような印象を今受けたので、そこを調べていただいて、もしオープンにできるのであればやったほうがいいと思います。

つまり、学校に行かないという前提で話をしているのはおかしいような気がし

ます。つまり今の子たちは学校へ行くんですよ。出身校へ一回行って、何かないですかっていう子たちが多いので、それができるようにしたほうがいいという気はします。

【柳田船員労政課長】

ただ、高校に関していうと、求人票の受け付けは、毎年7月1日以降でないとだめという制限や就職活動は9月以降でないとだめという制限があります。

【高橋（真） 部会長】

ありますね。

【柳田船員労政課長】

だから、在校生用と卒業して来る人とすっかり分けてやるという形になるのですよね。

【高橋（真） 部会長】

私も大分前に高校で進路指導をやっていて、就職担当をしたことがありますが、新卒扱いと新卒・既卒オーケーという求人が2種類来ていて、両方オーケーという求人に関しては、卒業生が来た場合に同じように紹介するというのを、高校でやっていた気がします。

どちらでもいいという会社があるので、特に船の場合、それはかなりの数があるのではないかという気がします。

【高橋（真） 部会長】

確認をしていただいて、もし、わざわざ行かなくても学校でも見られるという話になるのであれば、そのほうが早いですよね。

【柳田船員労政課長】

わかりました。

【高橋（真） 部会長】

ではその確認をお願いしていいですか。

【柳田船員労政課長】

はい、確認します。

【津田労働者委員】

今は卒業生の話ですけども、今度は、3年生の進路関係で、例えば船員を希望する生徒がいる中で、求人が来なくて生徒を船社会のほうに送り出せないとい

うような状況もあり、それで先生方が無料職業紹介所であるので、インターネット上で求人欄を見るのですが、せめて会社名くらいは載せてもらえると助かるという話もありました。

【柳田船員労政課長】

会社名はインターネット上で出ていると思います。

【津田労働者委員】

出ていますか。そこまで見られると生徒のほうにも紹介できるとのことですが、ただそれ以外だと、また運輸局とのやりとりがあつてという話もありました。その辺、どこまで詳細が見られるのか。

【柳田船員労政課長】

ある程度見られると思っていましたが。

【森公益委員】

自分の持っている免許などの情報を入力して検索すると求人情報が出てきて、さらに詳細をクリックすると会社名も含めて全部出ます。

【高橋（雅）労働者委員】

前は出ていなかったですよ。この番号に問い合わせして下さいと表示されて。

【森公益委員】

詳細はどどこに問い合わせしてくださいと出ますが、会社名から何から全部出ます。

【柳田船員労政課長】

実際に大もとのデータは運輸局の窓口で受け付けた求人情報なので、実際にそこに応募するときにはちょっと役所に連絡とって求職申し込みをして下さいというただし書きがついていたりします。

ただ、情報としては結構細かなところまで出ていると思います。

【熊谷労働者委員】

漁船でも、これは先生の話ですけれども、本科生よりは専攻科生のほうに求人は多いです。あと中途も、12月とか11月ぐらいには結構来ますが、やはり基本は7月ぐらいからなので、できれば7月ぐらいにもっと求人を回してほしいという話もありました。ただ、漁船の場合は7月とか、漁種によって切り上げとかあるので、そういうふうに一概にはやれないとは思いますが。

【高橋（真） 部会長】

陸上の場合と船員の場合で事情が違ってもかかわらず、高校なんかだと7月1日求人票受付で、9月中旬に面接開始としています。今話を聞いて思ったのは、陸上のルールで全部動いているので、船員募集に関していうと、来年3月卒業であれば実際もっと早くても、あるいはもっと事情が異なっても、別なルールで高卒の求人はかけても本当はいいのかもしれないですよ。扱っているところは違いますが、実際は厚労省がつくったルールでずっと高校のほうは動いていますので、今考えると、海のほうは別に求人の仕組みでやらないと、かえって動かないのかなと思います。

ほか、労働者委員から何かありますか。

【熊谷労働者委員】

実習船の福島丸ですけれども、今月の26日の10時に初航海を終えて小名浜港へ入港する予定です。一度船員がちょっとけがをして、降ろしたのですけれども、それ以外はどうかこなして、26日に入港する予定です。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。ほかにないですか。

それでは使用者委員から何かありますか。

【平岡使用者委員】

今週月曜日の内航海運新聞という業界紙に明るいニュースが載ってまして、交通政策審議会海事分科会第101回船員部会、事務局から報告されたことですが、全国に46校ある水産系高校の平成28年度の卒業生のフェリー・旅客船を含む内航業界へ就職した人が424名と、平成25年度の211名に対し3年間で2倍を超えたという明るいニュースでした。

日本内航海運組合総連合会では、数年前より水産高校にPRをして、若年船員を確保するという事で力を入れてきたわけで、特に東北地方に重点を置いて、東北運輸局からも出前講座とか、ご支援をいただき、その成果が出たのかなと。来月の11日にも、八戸水産高校で出前講座があるということです。

この今言った424名と平成25年度の211名の、東北の数というのはわかりませんかでしょうか。

【柳田船員労政課長】

前回の部会資料の中に管内の高校の卒業生の船員就職者数は出ておりました、就職率の分母をどうするかというお話をいただいた資料でしたが、就職者数という実数はそのまま出しております。

【平岡使用者委員】

そうでしたか。あとは平成25年度の数字も分かりますか。

【柳田船員労政課長】

それも表に入っております。

【高橋（真） 部会長】

今の話は、新卒内航船員水産系高など4年で倍増という、15ページの記事ですね。ありがとうございます。齋藤委員、何かありますか。

【齋藤使用者委員】

特にございません。

【高橋（真） 部会長】

私が気になったのは、新聞情報を見ていて、燃油高というのが何か所か見えたのですが、今自動車のガソリンが上がっているというのはニュースにもなっていて、燃油もやっぱり結構上がっているのですね。

【齋藤使用者委員】

そうですね。我々漁船はA重油というスペックが多いのですけれども。

【高橋（真） 部会長】

そちらも影響していますか。

【齋藤使用者委員】

70円台後半くらいです。

【高橋（真） 部会長】

わかりました。ありがとうございます。

それでは、ほかにもございませんか。

ほかにはないので本日の議事は終了といたします。

次回の船員部会は7月27日金曜日の13時30分から、会場はここ、4階の会議室で開催します。

◎閉会